

第 38 回堺市新型コロナウイルス対策本部会議議事要旨

日 時：令和 4 年 3 月 5 日（土） 午前 11 時 00 分～午前 11 時 40 分

場 所：堺市役所本館 4 階 秘書課会議室、堺市役所本館 3 階 危機管理センター
（2 会場をテレビ会議システムでリモート接続のうえ開催）

- 議 題：1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について
2. 本市のワクチン接種の状況について
3. 大阪府の要請内容等について
4. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について
5. その他

【開会にあたり市長より】

- ・新型コロナウイルス感染症の市内の状況は、2 月上旬まで急激な増加傾向にあったが、現在は前週同曜日を下回る日が多くなっている。
- ・減少傾向にあると考えているが、減少幅は急激ではなく徐々に下がっている状況。
- ・新規陽性者が 500 人を超える日が続いており、市内医療機関の病床使用率も非常に高い。
- ・特に高齢者で亡くなる方が連日多くおられることを大変懸念している。
- ・大阪府内の状況も同様であり、昨日、大阪府に出されているまん延防止等重点措置の再延長が決定した。
- ・3 月に入って暖かくなり過ごしやすい季節を迎える。それに伴い人出も増える。
- ・延長となった 3 月 21 日までに減少傾向を更に進め、再拡大を可能な限り抑え込む必要がある。
- ・高齢者でワクチン接種が済んでいない方への対応等、感染が多い状況であっても市民の皆様様の命と健康を守るために人事を尽くす。本日はそのための方策について協議したい。

【議題説明及び質疑】

1. 本市の新型コロナウイルス感染症患者の状況等について（健康福祉局長）

（※資料 1-1、1-2、参考資料 1 参照）

- ・感染の初期からピークに至るまでの期間は、第 5 波、第 6 波ともに概ね 30 日程度。
- ・新規陽性者数の減少傾向は、第 5 波では 30 日程度で感染拡大以前と同水準まで減少したが、第 6 波ではそのような状況にない。
- ・今後も 1 日の新規陽性者数は数百人という高い状況が続くと考えられる。
- ・高齢者施設等でクラスターが急増するなど予断を許さない状況であり、緊張感を持って対応にあたっている。
- ・自宅療養者は、第 6 波では最大 10,828 人となり、現在も 5,400 人を超えている。
- ・自宅療養者に健康観察を適切に行っていただくためのパルスオキシメーターの配付、体調が悪化した場合に専門的相談や症状の確認ができる往診事業、訪問看護師の派遣、入院や受診が必要となった場合に早急に搬送するための民間救急と連携した搬送など、多様な自宅療養者支援体制を整えている。
- ・第 6 波では、高齢者施設で 21 件のクラスターが発生している。高齢者施設や療養型医療機関に入所・入院されている方は、基礎疾患のある方や寝たきりなど重症化リスクの高い身体状態であることから、同施設における感染拡大防止と重症化予防を徹底している。

(市長)

- ・自宅療養者の支援体制の中で、医師による健康相談の実績が0件となっている要因は何か。

(保健所次長)

- ・自宅療養者からの要請がないのが一つの理由。

(市長)

- ・陽性となった方の中にはこの仕組みを知らない人や気付かない人もおられるのではないかと周知に努めるように。
- ・自宅療養者の支援体制で、第6波で感染が急増したために対応が滞ったものもあると思う。どういったものが滞ったか、今も滞っているものはあるか。

(保健所次長)

- ・自宅療養応援パック事業は第5波までは最大235人であったが、第6波では6~7倍にまで増え、対応が滞ったことがある。
- ・パルスオキシメーターは十分な数を揃えており、必要な方へ配付できている。

(市長)

- ・1日の新規陽性者数が1,700人以上となり、対応が困難になった時期もあると思うが、現在は徐々に減少傾向にある。より自宅療養者にきめ細かな対応ができるように注力してもらいたい。

(消防局長)

- ・ここ1週間のコロナ対応を含めた救急出場件数は、1日平均173件で、昨年の平均値より20件程度多い状況が続いている。
- ・1日200件を超えた2月上旬のピーク時に比べると、減少傾向に転じている。
- ・入院先が決定せず救急隊が5時間以上の長時間にわたり現場に滞在した事案は、1月は0件であったが2月は8件となった。臨時救急隊の増隊、民間救急事業者と連携し、2月は民間救急事業者に27件引き継いだ。
- ・新たに軽症者移送協力件数を記載している。これは健康福祉局からの協力要請を受け、2月4日から歩行可能な軽症・無症状の陽性者を消防局の普通車両を使用して移送協力を行っているもの。
- ・救急体制が維持できているのは、関係機関のご協力によるものであり、特に救急医療機関では堺市医師会主導のもと円滑な受入れ体制を構築いただいていることが非常に大きく、感謝している。
- ・今後の課題として、第7波を想定した移送体制の強化が重要。その方策の一つとして、今月末に更新予定の救急車両3台のうち1台を健康福祉局で緊急走行を行わない移送車両として活用する。他の2台も消防局で管理を行い第7波に備えていく。

2. 本市のワクチン接種の状況について (健康福祉局理事)

(※資料2参照)

- ・本日午前9時現在のワクチン接種状況は、18歳以上が29%、65歳以上の高齢者の方の66.4%が3回目の追加接種を完了している。

(市長)

- ・本市では、18歳以上で2回目接種から6か月以上経過した全ての方を対象に追加接種を行

っている。

- ・一方で、重症化リスクの高い方が感染し、重症となることや亡くなられることを防ぐことを第一の目的として重症化リスクの高い方への接種を迅速に進めなければならない。
- ・高齢者施設でも様々な理由があって接種できていない方もおられると思うが、市として一人でも多くの方を救うことを第一に考えたい。
- ・施設によって課題があれば、その課題解決のサポートも含めて市から積極的に働きかけるように。

(健康福祉局理事)

- ・管理医がいる施設は、3月末までに完了する見込み。
- ・日程調整や医師会との調整を申し出ているが、接種が進んでいない施設もあるためさらにアプローチしていく。

(市長)

- ・昨夜の大阪府の対策本部会議では特にこの点について強く言及している。
- ・高齢者施設でのワクチン接種を3月21日までに完了するため、市町村、高齢者施設、医療機関に対して要請がある。
- ・追加接種が完了するまでの間に、クラスターが発生して重症化したり亡くなるという不幸なことが起こらないよう、1日でも早く、大阪府の要請であることも各施設に伝えながら確実に進むように注力すること。

3. 大阪府の要請内容について (危機管理監)

(※資料3参照)

4. 国・大阪府の対応を踏まえた今後の本市の対応について (危機管理監)

(※資料4参照)

【閉会にあたり市長より】

- ・感染症対策に直接関わっている職員はもちろん、直接の業務でなくても様々な対応で、それぞれの職場で負担の大きい状況が続いていると思う。
- ・仕事終わりに飲みに行ったりということも制限しているので、息抜きもしにくく、心理的な負担もあると思う。
- ・年度末を迎え組織も変わっていく時期でもあり、退職者もおられる。通常であれば送別会や交流を深める機会が多い時期となる。
- ・しかし、市民の皆様を支えることが役所の使命であり、感染リスクが高くなる行動は厳に慎んでいただきたい。
- ・日常の行動の中で、改めて全ての職員が感染対策を徹底して感染リスクが高い行動を控え、職員自らが市民の皆様呼び掛けていることの模範となり、堺市全体が一丸となって感染対策に取り組む。